

Juichi WAKISAKA Race Report

2015 AUTOBACS SUPER GT Round 6 - SUGO GT 300KM RACE -

◆◆ 優勝が見えた決戦、5位フィニッシュ ◆◆

No. 19 Weds Sport ADVAN RC F				
Drivers	Qualifying	Final		
脇阪 寿一 / 関口 雄飛	7位	5位		



■大会概要

開催日：2015年9月19日-2015年9月20日

サーキット：スポーツランドSUGO（宮城県仙台市、コース全長：3.704km）

レース距離：81周（300.024km）

入場者数：予選日8,000名、決勝日28,500名、合計36,500名

9月19-20日、宮城・スポーツランドSUGOにおいて2015年SUPER GT第6戦「SUGO GT 300km RACE」が行われた。脇阪寿一はNo.19 WedsSport ADVAN RC Fとともにドライブするパートナーの関口雄飛選手とともに大きく躍進の戦いを展開。予選7番手から決勝のスタートを切り、途中、大混乱の影響を受けつつも最後の最後まで粘りの走りで奮闘。厳しい戦いの中5位でフィニッシュ、開幕戦からの連続ポイント獲得をさらに伸ばすことになった。

■9月19日(土)

09:00-10:45 公式練習

13:50-14:05 ノックアウト予選（Q1）

14:42-14:54 ノックアウト予選（Q2）

【公式練習】 13番手 / 1'13.051

シーズン後半に入り、ますます激しい戦いを見せるSUPER GT。今回の舞台、スポーツランドSUGOは7月下旬にGT公式テストが行なわれた場所であり、その時点で得たデータと以後のレース実績を踏まえてクルマが持ち込まれることになった。午前9時、SUGOは気温22度、路面温度29度と季節なりの数値を示すものの、広がる青空からは時折強い日差しが照り、また前夜降った雨による影響か、蒸し暑さが先行するコンディションとなった。

セッション開始時にはウェット宣言が出ていたが、ほどなくしてコースは完全ドライへと移行。No.19 WedsSport ADVAN RC Fでは早速持ち込みのクルマの状況を確認するため、周回を重ねていった。しかし開始から1時間を前にクルマはピットイン。ガレージ内での作業が始まる。これはブレーキトラブルが発生したためで、その修復のために時間が取られてしまった。

残念ながら、脇阪がクルマの状況を確認しつつセットアップを進めるという作業の時間は減ってしまったが、トラブル自体は幸いも大事には至らず。セッション自体は13番手で終えている。



【ノックアウト予選（Q1）】4番手 / 1'12.070

午前の公式練習後、上空の広い範囲で薄く灰色の雲が広がったが、長らく照りつけていた日差しによって、GT500 クラスの Q1 を迎える頃は気温 25 度、路面温度 32 度というコンディションになった。午後 1 時 50 分、Q1 がスタート。まず No.19 WedsSport ADVAN RC F のステアリングを握ったのは、関口選手。ライバル勢に比べて遅いタイミングでのアタックとなつたが、着実にタイムを削って 1 分 12 秒 070 をマーク。一気にポジションを 4 番手へと引き上げ、見事 Q1 を通過する仕事ぶりを見せた。

【ノックアウト予選（Q2）】7番手 / 1'12.437

そしていよいよ脇阪がアタックを担当する Q2 が午後 2 時 42 分から始まる。この時点で気温は 25 度、路面温度は 30 度。Q2 へと進出を果たした 8 台の車両はほぼセッションの折り返しを過ぎてコースイン。脇阪も同様にアタックへと向った。

タイヤへしっかりと熱を入れ、アタックラップに挑んだ脇阪。刻んだタイムは 1 分 12 秒 437、ポジションは 7 番手。第 3 戦タイ以来、今シーズン 2 度目の Q2 で、チームベストのスタートティンググリッドを手にすることとなった。

「関口選手が 4 番手で僕が 7 番手と順位を下げてしましましたが、このチームに移籍してから一番のアタックができました」と全セッションを終えた脇阪がアタックを振り返った。「関口選手とのラップタイムの差もどんどん詰まってきたし、またアタックでのタイムを詰めるために必要なことが見えていますので、伸び代はまだまだあります」と極めて前向きに結果を受け止める。

「一時はどん底を味わい、走り方もわからなくなる中、色んな人に助けてもらい、今、自分の成長を感じることができます。今日は朝の練習走行でトラブルがあったため、速いラップタイムを経験せずそのまま Q2 となりましたが、決勝のことを考えると Q2 を経験することで、明日のレースラップが全く違ってくるのは明白です。可能性にワクワクし、明日への自信も持っています」と望みを見せた。「タイのどん底から富士より鈴鹿、鈴鹿より今日、今日より明日と自分の進化を肌で感じ、喜びと自分への期待、そして感謝の気持ちに包まれているので、明日はラップタイムをキチンと並べて、落とした順位を取り戻したい。頂点を目指して頑張ります」と力強く締めくくった。



■ 9月20日(日)

09:00-09:30 フリー走行

14:00- 決勝（81周）

【フリー走行】4番手 / 1'13.877

決勝日を迎えたスポーツランド SUGO。気温 22 度、路面温度 27 度の薄曇りの中、午前 9 時からフリー走行が始まった。大型連休の最中とあり、盛り上がる戦いの行方を見守ろうと、サーキットには 2 万 8 千人を超える観客が来場した。

決勝に向けて最終確認の作業に勤しんだ No.19 WedsSport ADVAN RC F。関口選手が 1 分 13 秒 877 のタイムをマーク、4 番手につける形でセッションを終了。いい流れを持続したまま、決勝を迎えることとなった。



【決勝】 5 位 / 6 ポイント獲得 (シリーズポイント : 24 ポイント、シリーズランキング : 11 位)

昼のピットウォークを境にして再び晴れやかな青空が広がったサーキット。次第に気温が上がり、汗ばむほどの陽気に包まれる。戦いを前にしたチームにとっては、この気温、路面温度の上昇がレースにどのような影響を与えるのか気掛かりが増えるばかり。しかし、その中でしっかりとチャンスを掴もうと、改めて気を引き締めたのは言うまでもない。

気温 28 度、路面温度 38 度の中、81 周にわたる戦いがスタート。No.19 WedsSport ADVAN RC F のスタートドライバーは関口選手。暑さを覚える中でスタートが切られ、全車クリアな状態でオーブニングラップが終了。関口選手はポジションキープのまま周回、次第にタイヤに熱が入ってペースアップすると、果敢に前方の車両との攻防戦へと持ち込んでいく。着実にポジションアップを狙って行こうとしたその矢先、26 周目のバックストレートでアクシデントが発生する。後方車両同士の接触ではあったが、うち 1 台がガードレールにヒットし、クルマを大きく破損させてコース上にストップ。これにより、セーフティカー (SC) がコースインし、レースがコントロール下に置かれることになった。

この時点で 5 番手へと浮上していた No.19 WedsSport ADVAN RC F。タイヤの安定したコンディションを味方にプッシュを続けていたところだったため水を差されるような形となったが、逆に前方車両との差は縮まり、逆転のチャンスも広がった。だがしかし、このあと SC 走行中に行われたピットトレーンオープンがチームの流れを大きく変えてしまうことになる。

SC 走行中に近づくルーティンワークのピットイン。ロスタイルを限りなく減らすために、ピットトレーンがオープンになると同時に作業を行なおうと、31 周終了の時点ではほとんどの車両がピットへとなだれ込んできた。GT500 に限らず GT300 の車両も同様の判断をしたことでピットトレーンは大渋滞。手狭な SUGO での作業は通常でもいっそうの注意を払う必要があるが、今回はそれさえもままならない状態。不運にも No.19 WedsSport ADVAN RC F は隣接する GT300 クラスの車両に引っ掛かることによりタイムロス。作業を済ませて脇阪がコースへと向う途中、他車が突然ピットアウトしてきたため接触を避けるために一時停止せざるを得ずさらにタイムロス、直後のピットトレーン出口付近では Honda の車両が完全に行く手を塞いでしまい脇阪は数十秒その場で停止を余儀なくされてしまうというありえないアクシデントに遭遇、SUGO の短いピットトレーンで 3 度も不運なロスタイルが重なってしまった。

類い稀なハプニングに見舞われ、さらに装着した硬めのタイヤがしっかりとパフォーマンスを発揮しはじめるまでに若干の時間を要し、次第にラップタイムが安定してからはコンパクトなサーキットである SUGO ゆえにすぐ GT300 の車両が引っ掛かるなど、難しいコンディションではあったが、脇阪は集中を切らすことなく戦いへと挑み続けた。

終盤、前方の車両を追いかける一方で、後方から No.15 NSX CONCEPT-GT の猛プッシュを受ける形となつたが、高い集中力を持続させその追撃をかわし、ひたすら前を追う。4 番手の No.6 RC F まで 0.4 秒、これをかわせば 3 位表彰台という No.24 GT-R まで約 4 秒と猛追するもあと一歩及ばず、結果、No.19 WedsSport ADVAN RC F は 5 位でフィニッシュ。開幕戦から全戦でポイント獲得の記録をま

たも更新、逆境の中でも強い戦いができるチームとして成長を見せつつ、終盤戦に向けて新たな一步を踏み出すことになった。



「今回は勝つ気で SUGO 入りただけに、この結果は本当に悔しい」と開口一番に切り出した脇阪。「富士、鈴鹿とメンタルの部分を自分でコントロールしつつ、また走りではラップタイムを引き上げていくなど色々なことを確実に証明しながらそろそろ勝ちたいという気持ちが大きくなっていました」と上昇気流に乗り、勝負に挑んだ経緯を語った。さらに中盤のピットインについて、「隣に陣取る同じチームの GT300 と連携ミスが生じたり、ピットロードに出たあとは他車が突然飛び出してきて一旦停止したり、1 コーナー側にピットを構えていた Honda の車両がピットロードを塞いでしまい行く手を阻まれることになりました。全部でいったいどれかけのタイムロスをしたのかわからないほど」と振り返った。

一方では前半を担当した関口選手の好走を称え、自らも硬めのタイヤで前方車両を懸命に追随したことに触れた。「渋滞に引っ掛かりながらも、終盤には No.6 RC F が目の前にいるところまで追いつめていたので、あと 1 周あれば…」と悔しさが先行するが、そういう状況下で粘り強く戦えるチームになってきたと報告。「今までの僕らなら今日の結果に喜んで満足していたけれど、今となっては残念で仕方ない。ただ、底力がついてきたからこそ獲れた 5 位でもあるので、さらにみんなもっと色々なことを学習し、レベルアップをして常に優勝を狙えるチームを目指したい」と本心を言葉にした。長いレースキャリアの中で得た自らの経験値をチームに伝え、それを共有することでさらにステップアップし、強いチームになっていくという思いを改めて確認したに違いない。

次戦は、10月31日(土)-11月1日(日)にオートポリス（大分県日田市）で開催される。

[Photo Gallery]



